

大学等名	山口県立大学
プログラム名	ひとや地域の課題解決人材育成のためのデータサイエンス教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- | | | |
|----------------|----------------|----------------------|
| ① 対象となる学部・学科名称 | ② 教育プログラムの修了要件 | 学部・学科によって、修了要件は相違しない |
|----------------|----------------|----------------------|

③ 修了要件

《令和6年度以前入学生》

「データサイエンス概論」、「コンピュータ・リテラシー」、「データサイエンス演習」の単位(合計6単位)を修得すること。該当する科目は全て必修科目であり、これらの学修内容は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)実施要項細目に記載の5つの審査項目に対して網羅的に対応している。

《令和7年度以降入学生》

「データサイエンス概論」、「データ科学と社会Ⅰ」、「データ科学と社会Ⅱ」、「データサイエンス演習」の単位(合計6単位)を修得すること。該当する科目は全て必修科目であり、これらの学修内容は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)実施要項細目に記載の5つの審査項目に対して網羅的に対応している。

必要最低单位数	6	単位
---------	---	----

履修必須の有無 令和4年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

[illegible]

- ⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

[illegible]

- ⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

[illegible]

- ⑦「活用に応じた様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

[illegible]

- ⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス概論	2	○	○	○	○						
コンピュータ・リテラシー	2	○	○	○	○						
データサイエンス演習	2	○	○	○	○						
データ科学と社会Ⅰ	1	○	○	○	○						

- ⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

- ⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI「データサイエンス概論」(1回目、2回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上「データサイエンス概論」(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「データサイエンス概論」(1回目、3回目)、「データ科学と社会Ⅰ」(2回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「データサイエンス概論」(3回目)、「データ科学と社会Ⅱ」(5回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「データサイエンス概論」(2回目、3回目)、「データ科学と社会Ⅰ」(4回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データサイエンス概論」(2回目、3回目)、「データ科学と社会Ⅰ」(3回目)
	1-6	・AI等を活用した新しいビジネスモデル「データサイエンス概論」(3回目)、「データ科学と社会Ⅱ」(7回目) ・AI最新技術の活用例「データサイエンス概論」(3回目、14回目)、「データ科学と社会Ⅱ」(6回目、7回目、8回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・1次データ、2次データ、データのメタ化「データサイエンス概論」(8回目、10回目～13回目)、「コンピュータ・リテラシー」(4回目)「データ科学と社会Ⅰ」(3回目、5回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「データサイエンス概論」(14回目)、「コンピュータ・リテラシー」(4回目)「データ科学と社会Ⅰ」(3回目) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)「コンピュータ・リテラシー」(10回目)「データ科学と社会Ⅰ」(3回目)、「データサイエンス演習」(1回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「データサイエンス概論」(8回目、10回目～13回目)、「データサイエンス演習」(1回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「データサイエンス概論」(1回目～3回目)、「データ科学と社会Ⅰ」(4回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「データサイエンス概論」(1回目～3回目)、「データ科学と社会Ⅰ」(4回目)、「データ科学と社会Ⅱ」(7回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「データサイエンス概論」(1回目～3回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーションなど「データサイエンス演習」(10回目～13回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化など「データサイエンス概論」(8回目～13回目)、「コンピュータ・リテラシー」(11回目)「データ科学と社会Ⅰ」(6回目、7回目)、「データサイエンス演習」(3回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理など「データサイエンス演習」(12回目、13回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「データサイエンス概論」(2回目)、「データ科学と社会Ⅰ」(2回目) ・認識技術「データサイエンス演習」(15回目)
	1-5	・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「データサイエンス概論」(4回目、5回目) ・流通、製造、サービス、インフラ、公共等におけるデータ・AI活用事例紹介「データサイエンス概論」(3回目、14回目)、「データ科学と社会Ⅱ」(7回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・ELSI「データサイエンス概論」(6回目) ・個人情報保護、忘れられる権利、オプトアウト「データサイエンス概論」(6回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「データサイエンス概論」(6回目)、「データ科学と社会Ⅱ」(4回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「データサイエンス概論」(6回目) ・AIサービスの責任論「データサイエンス概論」(6回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス概論」(6回目)
	3-2	・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「データサイエンス概論」(6回目)、「コンピュータ・リテラシー」(1回目)「データ科学と社会Ⅱ」(2回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス概論」(6回目)、「データ科学と社会Ⅱ」(3回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用に関するもの	2-1	・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「データサイエンス概論」(10回目～13回目)、「コンピュータ・リテラシー」(8回目)「データ科学と社会Ⅰ」(5回目、6回目)、「データサイエンス演習」(2回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「データサイエンス概論」(10回目～13回目)、「データサイエンス演習」(2回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「データサイエンス概論」(10回目～13回目)、「コンピュータ・リテラシー」(9回目)「データ科学と社会Ⅰ」(5回目、6回目)、「データサイエンス演習」(2回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い「データサイエンス概論」(10回目～13回目)、「データサイエンス演習」(10回目、11回目、13回目) ・打ち切りや脱落を含むデータ「データサイエンス概論」(10回目～13回目)、「データサイエンス演習」(6回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関)「データサイエンス概論」(10回目～13回目)、「データサイエンス演習」(5回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査)「データサイエンス概論」(10回目～13回目)、「データサイエンス演習」(1回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列「データサイエンス概論」(10回目～13回目)、「データサイエンス演習」(5回目、6回目) ・統計情報の正しい理解「データサイエンス概論」(10回目～13回目)、「データサイエンス演習」(5回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「データサイエンス概論」(10回目～13回目)、「コンピュータ・リテラシー」(10回目、11回目)「データ科学と社会Ⅰ」(6回目、7回目)、「データサイエンス演習」(3回目) ・データの図表表現(チャート化)「データサイエンス概論」(10回目～13回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較)「データサイエンス演習」(8回目) ・不適切なグラフ表現(不必要な視覚的要素)「コンピュータ・リテラシー」(10回目)「データ科学と社会Ⅰ」(6回目、7回目)、「データサイエンス演習」(3回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「データサイエンス概論」(7回目)
	2-3	・データの集計「データサイエンス概論」(10回目～13回目)、「コンピュータ・リテラシー」(8回目)「データ科学と社会Ⅰ」(8回目)、「データサイエンス演習」(6回目) ・データの並び替え、ランキング「データサイエンス概論」(10回目～13回目)、「コンピュータ・リテラシー」(8回目、9回目)「データ科学と社会Ⅰ」(8回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「データサイエンス概論」(10回目～13回目)、「データサイエンス演習」(7回目～9回目) ・表形式のデータ(csv)「データサイエンス概論」(8回目)、「データサイエンス演習」(9回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

Society5.0の社会で生活するリテラシー、特に地域の課題解決のためにデータを活用する方法や適切に解釈する能力を身に付ける。さらに、民間企業や研究機関からのゲストスピーカーなどとの意見交換を通して、データサイエンスと社会とのつながりも修得する。

①プログラム開設年度 R4 年度

[illegible]

大学等名 山口県立大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 84 人 (非常勤) 171 人

② プログラムの授業を教えている教員数 10 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 田中マキ子

(役職名) 学長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

基盤教育運営センター会議

(責任者名) 畔津忠博

(役職名) 基盤教育Ⅲ群責任者

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

山口県立大学基盤教育運営センター会議規程

⑥ 体制の目的

山口県立大学基盤教育運営センター会議は、基盤教育の組織及び運営について必要な事項を定めるために置かれている。基盤教育の中の数理・データサイエンス科目(Ⅲ群)は、身の回りのデータが持っている価値を見極めて、地域の課題解決のために効果的に役立てるにはどうすべきかを学ぶ科目群であり、客観的なデータに基づいて、科学的で合理的な分析や判断ができるようになることを目指している。Ⅲ群の授業を効果的に運営できるように基盤教育運営センター会議に数理・データサイエンス教育ワーキング・グループを置き、授業テーマの選定、教材の作成、授業状況の確認など定期的に授業内容の検討、見直しを行っている。

⑦ 具体的な構成員

基盤教育センター会議 議長 国際文化学部文化創造学科 教授 池田 史子
 基盤教育センター会議 委員
 国際文化学部国際文化学科 准教授 スワンソン・マーク
 国際文化学部国際文化学科 講師 芹澤 隆道
 国際文化学部文化創造学科 准教授 小橋 圭介
 国際文化学部文化創造学科 講師 仲村 拓真
 国際文化学部情報社会学科 教授 畔津 忠博
 社会福祉学部社会福祉学科 講師 山崎 智仁
 看護栄養学部看護学科 准教授 松浦 仁美
 看護栄養学部栄養学科 講師 兼安 真弓
 教育研究支援部教務部門 部門リーダー 中村 早苗
 教育研究支援部教務部門 主事 中原 由衣
 基盤教育センター 実習助手 梶村 知美

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	26%	令和5年度予定	50%	令和6年度予定	75%
令和7年度予定	100%	令和8年度予定	100%	収容定員(名)	1,256
具体的な計画					
本教育プログラムを構成する「データサイエンス概論」、「コンピュータ・リテラシー」「データ科学と社会Ⅰ」、「データ科学と社会Ⅱ」、「データサイエンス演習」は1年次の必修科目であるため、履修者数は1年生全員である。そのため、履修者数・履修率向上の工夫は必要なく、全員が履修する。このことは、入学時に配布する「履修の手引き」に記載しており、入学時のオリエンテーションで説明している。また、履修登録が自動的に行われるようになっている。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本教育プログラムは、令和4年度入学生から全学(3学部5学科)必修である。令和7年度から全学(3学部6学科)必修である。
--

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本教育プログラムは令和4年度入学生から全学必修(3学部5学科)である。令和7年度から全学必修(3学部6学科)である。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムは令和4年度入学生から全学必修である。本教育プログラムを構成する「コンピュータ・リテラシー」、「データサイエンス演習」では、40名から60名程度のクラスに細分化し、それぞれ原則としてTAを1名配置している。また、令和5年度からは特任教員を2名配置し、授業の補助や時間外学修の相談時間を充実させ、学習支援体制を整備したところである。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業では教員とTAが質問に応じ、授業時間外においてはLMSやメール等によるオンラインまたはオフィスアワー等による対面で応じている。令和5年度からはさらに、予約制で学習相談に当たる学習支援制度を開始したほか、定期的に勉強会を開催することとしている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

基盤教育運営会議		
(責任者名)	池田史子	(役職名)
		学長補佐(基盤教育担当)

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本学の教務部門は学生情報システム(GAKUEN)の運用を通じて、本教育プログラムを構成する 4科目(令和6年度以前入学生は3科目) を含めた全ての科目の履修状況、単位取得状況、成績分布を把握している。また、これらのデータの一部は、各学部の中で閲覧権限が付与されている学部長、学科長、チューター教員が確認できる。チューター教員は学科長からの指示により、グレードポイントアベレージ(GPA)に基づき必要に応じて学生に対して学習指導を行っている。 出席状況に不安がある学生については、実習助手を通して把握し、学科長に連絡後、チューター教員が他の科目の履修状況とも合わせて指導する体制となっている。また、毎学期末に学生が振り返りを入力し、チューター教員がコメントをフィードバックする学修ポートフォリオも活用し、履修・修得状況や学習状況を把握している。
学修成果	本学では、本教育プログラムを構成する 4科目(令和6年度以前入学生は3科目) を含めた全ての科目に対して学生による授業評価アンケートを行っている。授業担当者は、授業評価アンケートの結果と授業評価の現状や改善点などを記入した授業評価の振り返りシートを提出している。これらの振り返りシートをもとに、4つの科目群ごとに「授業改善のためのcheck & action」シートに基づいて検討し、その結果を基盤教育運営センター会議長に提出、基盤教育運営センター会議の議長が全体を見て成果や改善点を会議で指示するほか、全学の教育推進・学生支援本部会議に報告することとなっている。これにより、授業改善が科目レベル・プログラムレベル・全学レベルで共有できる仕組みとなっている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業評価の質問項目の中で、「演習では、各学生の意欲や理解を深める上での工夫がみられましたか?」、「全体を通して、演習の内容が理解できましたか?」、「総合的に判断して、この授業に満足できましたか?」などの、理解度や満足度に関連したものがあるので、これらの結果を分析することで、学生の理解度、満足度、それらの関連などの分析が可能である。この基礎分析は本学のアンケート実施主幹部署にて行い、成績分布図をそえて提出する。 本教育プログラムを構成する 4科目(令和6年度以前入学生は3科目) については、まず、各授業科目の担当教員が授業アンケートに対する振り返りを記載し、成績分布とともに基盤教育運営センター会議議長に提出し、改善が必要な場合は議長が指示をする仕組みとなっている。次に、本事業の 4科目(令和6年度以前入学生は3科目) からなる基盤教育第Ⅲ群「数理・データサイエンス科目」を担う教員全員が、Ⅲ群を構成する科目全体の運営について話し合い、その結果を記入する「教育改善を可視化する主体的Check & Actionシステム」ワークシートで確認している。さらに、Ⅲ群を含めた4つの群全体のワークシートを基盤教育運営会議で協議し、教育改善に努めるほか、毎月開催される全学の「教育推進・学生支援本部会議」(本部長・学長)において状況を共有している。 各科目では15回の授業中に小テストや課題を出し、その結果を見て学生の理解度を図りつつ授業を進めている。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	本教育プログラムは全学必修であるため、入学時のオリエンテーションで情報教育に関する説明を行っている。また、Webページを通じて内容の周知を行っている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムは令和4年度入学生から全学必修であるため、全学生の履修率100%を達成できる。また、学生の履修状況や基盤教育全体の教育の進捗、改善状況等については、毎月開催する全学の「教育推進・学生支援本部会議」において確認したり審議したりすることとなっている。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本学では、毎年キャリアサポートセンターが卒業生へアンケートを行っており、卒業生の進路や活躍状況が把握できる仕組みを構築している。令和4年度の新入生から開始した新カリキュラムの卒業生を輩出するのは令和7年度であり、毎年実施する卒業生調査と進路状況の把握において評価する。 なお、令和4年度末に実施した卒業生調査・企業調査には、情報教育・データサイエンス教育等に関する質問事項を入れている。令和5年度前期中に得られる調査結果をふまえ、具体的に授業への改善に反映させる。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本教育プログラムでは実社会でデータサイエンスがどのように活用されているかについて、複数のゲストスピーカーを招き、実践事例を紹介している。その際、これらの方々や関係者から、本教育プログラムの意見を収集している。さらに、令和4年度から開始した基盤教育科目「やまぐち未来デザインプロジェクトⅠ・Ⅱ」では、データサイエンスで学ぶ知識とスキルを活用するように授業デザインを行っている。具体的にはデータを用いて地域課題を説明するため、経済産業省の「地域経済分析システム（RESAS：リーサス）」の授業を組み込み、その他の統計情報も収集して資料を作成し、グループで議論を行い、発表する形をとっている。最終発表会では、行政や企業からの評価者を招き、学生へのフィードバックを得る他、授業に対するコメントも得ている。これらについても、数理・データサイエンス関連科目の内容・手法に反映している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「データサイエンス概論」においては、民間企業や研究機関で活躍している複数名の民間企業の方や研究者などをゲストスピーカーとして招聘している。過去に招聘したゲストスピーカーとしては、東証一部上場大手電機メーカーにおいて社内向けデータサイエンス教育を行っている部署の担当者の方と国立公文書館にてデジタルアーキビストとして勤務されている方であり、いずれも文系学部出身で現在データサイエンスの現場で活躍されている方である。ゲストスピーカーからは、文系がデータサイエンスを学ぶ意義とその社会への実装について実事例を交えた講義が行われ、講義時間の関係上当日対応しきれなかった学生からの質問のフィードバックも後日行う形で対応した。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	LMSを活用することで、教材、資料に常にアクセスできるようにし予習・復習を行いやすい環境を整備している。また、一部の内容は教科書（『LibreOfficeで学ぶ情報リテラシー』、東京電機大学出版局、2016年）を作成している。また、教科書を用いない場合は、毎回資料を作成しPDFにして配布している。例えばプログラミングの演習では環境の構築手順から、基本的な文法、実際のプログラムの作成まで、資料を見て完結するようにしており、教材の充実に努めている。また、演習においては、データ分析やプログラムの作成など、ほぼ毎回課題を出して提出させ、段階的に理解が進むよう工夫している。

科目名		データ科学と社会Ⅰ a（国・文・情）				授業コード		D003001a											
科目ナンバリング		授業形態		履修形態		単位数		年次		開講期									
AA130aJ		講義		必修		1単位		1年		前期									
担当者名		吉永 敦征、藤田 采花、未定																	
学修目標との対応																			
DP1			DP2				DP3												
1-1		1-2		1-3		2-1		2-2		2-3		3-1		3-2		3-3			
30				30		20		20											
授業概要																			
現在、AIをはじめとする技術が急速に発展し、社会のあらゆる分野で新たな価値が見いだされている。この授業ではこれらの技術を支えるデータサイエンスを学ぶ意義を知るとともに、その基礎となるデータリテラシー（データを的確に理解し、解釈し、分析する能力）を身に着けることを目標とする。																			
到達目標								成績評価の方法と基準											
・ データサイエンスを学ぶ意義を理解する。 ・ データサイエンスの基礎となるデータリテラシーを身に着ける。								授業ごとの課題の提出を評価する。											
学習目標				評価項目と割合															
具体的学習目標				配点比率		授業態度		小テスト		自主学習態度		レポート		プレゼンテーション		学期末筆記試験		その他	
・ データサイエンスが現代社会に貢献していることを説明できる。 ・ データ収集と分析により、新しい価値が創造できることを説明できる。				25								25							
・ データ分析の方法を選択できる。 ・ データを分析して解釈できる。				25								25							
自らデータを収集し、分析を試みることができる。				25								25							
・ パソコンやデータを適切に管理できる。 ・ パソコンを用いて基本的なデータ分析ができる。				25								25							
授業の項目と内容・方法								事前事後学習の内容と目安時間											
第1回		はじめに																	
講義概要、準備								指示された課題を完成させる。概ね4時間以内に終了させること。											
第2回		社会で起きている変化																	
膨大なデータの収集と流通、計算機の処理能力の飛躍的な向上、そしてAIの非連続的進化によって、社会で起きている変化を解説する。その上で、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を解説する。								指示された課題を完成させる。概ね4時間以内に終了させること。											
第3回		社会で活用されているデータ																	
社会ではどのようなデータが収集され、どのように活用されているのかを解説する。								指示された課題を完成させる。概ね4時間以内に終了させること。											
第4回		データ・AIの活用領域																	
データおよびAIは、研究開発、生産、マーケティング、文化活動など幅広い領域で活用されており、効率化や新たな価値の創出に貢献していることを解説する。								指示された課題を完成させる。概ね4時間以内に終了させること。											
第5回		データを読む																	
データを読み解く方法について、以下の項目に関して解説と演習を行う。演習内容の一部は、次週に続く。 1. データの種類 2. データの分布と代表値 3. データのばらつきと外れ値 4. 相関と因果 5. データの誤差や欠測値への対処 6. 母集団と標本抽出 7. クロス集計表、相関係数行列 8. 統計情報の正しい理解を深める演習								指示された課題を完成させる。概ね4時間以内に終了させること。											

第 6 回	データを読む、データを説明する	
・ 第5回に示した項目について、引き続き演習を行う。 ・ データの説明に必要な以下の項目について解説し、演習を行う。 1. データの可視化 2. データの比較		指示された課題を完成させる。概ね4時間以内に終了させること。
第 7 回	データを説明する	
第6回に示した項目について、引き続き解説と演習を行う。		指示された課題を完成させる。概ね4時間以内に終了させること。
第 8 回	データを扱う	
以下の項目について、解説および演習を行う。 1. データの取得 2. データの集計 3. データの並び替え、ランキング 4. 表形式のデータの種類と扱い方		指示された課題を完成させる。概ね4時間以内に終了させること。
第 9 回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
テキスト、副読本、教材		プリント等を用いる。
受講生へのメッセージ		理解の度合に応じて適宜内容を変更することがあります。きちんと出席して単位をとれるように頑張ってください。
履修条件及び備考（レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等）		SPARC教育プログラム科目：③データサイエンスに関する知識・技能

科目名	データ科学と社会Ⅱ a（国・文・情）					授業コード	D003002a		
科目ナンバリング	授業形態		履修形態		単位数	年次		開講期	
AA131bJ	演習		必修		1単位	1年		前期	
担当者名	長谷 和久、藤田 采花、吉永 敦征								
学修目標との対応									
DP1			DP2			DP3			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	
20		40	20	20					
授業概要									
データ・AIの利活用のための必須の留意事項（情報セキュリティ、倫理、法規）について解説する。また、データ科学と社会Iの内容を踏まえて、データ・AI利活用のための技術と最新動向について説明する。業務や研究におけるデータサイエンスの活用事例を紹介する。 講義は、講義形式（動画の視聴を含む）を主として実施する。"									
到達目標					成績評価の方法と基準				
「超スマート社会」の到来に備えて、それを支えるデータサイエンスの概要を理解するとともに、情報および情報手段を主体的に選択し、正しく安全に活用するための基礎的な知識・技能を身につける。					各回の授業後に課すレポートの内容に基づいて評価する。				
学習目標		評価項目と割合							
具体的学習目標		配点比率	授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末筆記試験	その他
(1) データ・AIの利活用において留意すべきことを理解し、実践できるようになること。 (2) データ科学と社会Ⅰの内容を踏まえて、データサイエンスについての理解を深めること。		授業への積極的参加（集積や授業内での発言）：50%、 授業後のレポートの内容50%							
授業の項目と内容・方法					事前事後学習の内容と目安時間				
第1回	はじめに								
講義概要を説明し、必要な準備を行う。					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。				
第2回	データを守る上での留意事項								
情報セキュリティの考え方と具体的な対策方法について説明する。					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。				
第3回	データ・AIを扱う上での留意事項①								
データやAIを活用する上で留意すべきことについて、法規を中心に解説する。					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。				
第4回	データ・AIを扱う上での留意事項②								
データやAIを活用する上で留意すべきことについて、倫理を中心に解説する。					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。				
第5回	データ・AI利活用のための技術								
データサイエンスやAI利活用において、どのような技術が用いられているかについて解説する。					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。				
第6回	データ・AI利活用の最新動向								
データ・AI利活用の最新動向について解説する。					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。				
第7回	産業分野におけるデータ・AI利活用の現場								
企業等に在籍する学外講師が、業務におけるデータやAIの利活用事例を解説する。					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。				

第 8 回	学術分野におけるデータ・AI利活用の現場	
教員の専門である心理学における研究事例を通して、目に見えない心を測定し、研究するための実験・分析手法について講義する。		授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。
第 9 回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
テキスト、副読本、教材		
受講生へのメッセージ		
履修条件及び備考（レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等）		SPARC教育プログラム科目：③データサイエンスに関する知識・技能

科目名		データ科学と社会Ⅱ b（社）				授業コード		D003002b		
科目ナンバリング		授業形態	履修形態	単位数		年次		開講期		
AA131 b J		演習	必修	1単位		1年		前期		
担当者名		栗原 俊之、末本 哲雄、大高 洸輝								
学修目標との対応										
DP1			DP2			DP3				
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3		
20		40	20	20						
授業概要										
データ・AIの利活用のための必須の留意事項（情報セキュリティ、倫理、法規）について解説する。また、データ科学と社会Ⅰの内容を踏まえて、データ・AI利活用のための技術と最新動向について説明する。業務や研究におけるデータサイエンスの活用事例を紹介する。 講義は、講義形式（動画の視聴を含む）を主として実施する。										
到達目標					成績評価の方法と基準					
「超スマート社会」の到来に備えて、それを支えるデータサイエンスの概要を理解するとともに、情報および情報手段を主体的に選択し、正しく安全に活用するための基礎的な知識・技能を身につける。					授業態度・参加度および毎授業で課されるレポートの内容により総合的に判断する。					
学習目標			評価項目と割合							
具体的学習目標			配点比率	授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末筆記試験	その他
データ・AIの利活用において留意すべきことを理解し、実践できるようになる。			レポートの配点を60ー70%を目安とし、残りを授業態度・参加度による配点とする。							
(2)データ科学と社会Ⅰの内容を踏まえて、データサイエンスについての理解を深めること。										
授業の項目と内容・方法					事前事後学習の内容と目安時間					
第1回	はじめに									
講義概要を説明し、必要な準備を行う。					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。					
第2回	データを守る上での留意事項									
情報セキュリティの考え方と具体的な対策方法について説明する。（オンライン授業）					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。					
第3回	データ・AIを扱う上での留意事項①									
データやAIを活用する上で留意すべきことについて、法規を中心に解説する。（オンライン授業）					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。					
第4回	データ・AIを扱う上での留意事項②									
データやAIを活用する上で留意すべきことについて、倫理を中心に解説する。（オンライン授業）					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。					
第5回	データ・AI利活用のための技術									
データサイエンスやAI利活用において、どのような技術が用いられているかについて解説する。（オンライン授業）					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。					
第6回	データ・AI利活用の最新動向									
データ・AI利活用の最新動向について解説する。（オンライン授業）					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。					
第7回	産業分野におけるデータ・AI利活用の現場									

企業等に在籍する学外講師が、業務におけるデータやAIの利活用事例を解説する。		授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。
第 8 回	学術分野におけるデータ・AI利活用の現場	
学生が所属する学部専攻分野を担当する教員が、研究におけるデータやAIの利活用事例を解説する。		授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。
第 9 回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
テキスト、副読本、教材		授業内で配布またはPortalに掲載
受講生へのメッセージ		
履修条件及び備考（レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等）		SPARC教育プログラム科目：③データサイエンスに関する知識・技能

科目名	データ科学と社会Ⅱ c（看・栄）					授業コード	D003002c			
科目ナンバリング	授業形態		履修形態		単位数	年次		開講期		
AA131bJ	演習		必修		1単位	1年		前期		
担当者名	宇田 新介、末本 哲雄、畔津 忠博									
学修目標との対応										
DP1			DP2			DP3				
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3		
20		40	20	20						
授業概要										
データ・AIの利活用のために必須の留意事項（情報セキュリティ、倫理、法規）について解説する。また、データ科学と社会Ⅰの内容を踏まえて、データ・AI利活用のための技術とその最新動向について説明する。業務や研究におけるデータサイエンスの活用事例を紹介する。 授業は、講義形式（動画の視聴を含む）を主として実施する。										
到達目標					成績評価の方法と基準					
「超スマート社会」の到来に備えて、それを支えるデータサイエンスの概要を理解するとともに、情報および情報手段を主体的に選択し、正しく安全に活用するための基礎的な知識・技能を身につける。					授業態度・参加度および小テストにより総合的に判断する。					
学習目標			評価項目と割合							
具体的学習目標			配点比率	授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末筆記試験	その他
(1) データ・AIの利活用において留意すべきことを理解し、実践できるようになること。 (2) データ科学と社会Ⅰの内容を踏まえて、データサイエンスについての理解を深めること。			小テストの配点を60-70%を目安とし、残りを授業態度・参加度による配点とする。							
授業の項目と内容・方法					事前事後学習の内容と目安時間					
第1回	はじめに									
講義概要を説明し、必要な準備を行う。 オンライン（動画の視聴を含む）					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。					
第2回	データを守る上での留意事項									
情報セキュリティの考え方と具体的な対策方法について説明する。 オンライン（動画の視聴を含む）					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。					
第3回	データ・AIを扱う上での留意事項①									
データやAIを活用する上で留意すべきことについて、法規を中心に解説する。 オンライン（動画の視聴を含む）					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。					
第4回	データ・AIを扱う上での留意事項②									
データやAIを活用する上で留意すべきことについて、倫理を中心に解説する。 オンライン（動画の視聴を含む）					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。					
第5回	データ・AI利活用のための技術									
データサイエンスやAI利活用において、どのような技術が用いられているかについて解説する。 オンライン（動画の視聴を含む）					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。					
第6回	データ・AI利活用の最新動向									
データ・AI利活用の最新動向について解説する。 オンライン（動画の視聴を含む）					授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。					

第 7 回	産業分野におけるデータ・AI利活用の現場	
企業等に在籍する学外講師が、業務におけるデータやAIの利活用事例を解説する。 オンライン（動画の視聴を含む）		授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。
第 8 回	学術分野におけるデータ・AI利活用の現場	
学生が所属する学部専攻分野を担当する教員が、研究におけるデータやAIの利活用事例を解説する。 オンライン（動画の視聴を含む）		授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと（学修時間の目安は2時間とする）。
第 9 回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
テキスト、副読本、教材		
受講生へのメッセージ		
履修条件及び備考（レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等）		SPARC教育プログラム科目：③データサイエンスに関する知識・技能

(4)教育課程

①基盤教育授業科目一覧表

学部・学科によって、それぞれの科目の位置づけ（必修科目、選択科目）は多少異なっていますので、履修にあたっては各学部・学科の授業科目一覧表を参照してください。

授業科目名		科目 ナンバリング	開講期
基盤教育科目群	Ⅰ群 生命・生活・人生 を探究する科目	ライフデザイン	AA101aJ 1 前
		就業体験・インターンシップ	AA102bJ 1・2・3 前
		キャリアデザイン	AA103aJ 3 前
		日本国憲法	AA104aJ 1・2・3・4 前・後
		科学と社会	AA105aJ 1・2・3・4 前
		こころの科学	AA106aJ 1・2・3・4 後
		生命と倫理	AA107aJ 1・2・3・4 後
		地域共生論	AA108aJ 1・2・3・4 後
		地域環境論	AA109aJ 1・2・3・4 前
		社会生活論	AA110aJ 1・2・3・4 前
		生涯学習論	AA111aJ 1・2・3・4 後
		知的財産入門	AA112aJ 1 前
		健康スポーツ理論	AA113aJ 1・2・3・4 前・後
		スポーツ実技Ⅰ	AA114eJ 1・2・3・4 前
		スポーツ実技Ⅱ	AA115eJ 1・2・3・4 後
		日本の芸術と文化Ⅰ	AA116eJ 1・2・3・4 前・後
		日本の芸術と文化Ⅱ	AA117eJ 1・2・3・4 前・後
		山口の芸術と文化	AA118eJ 1・2・3・4 前・後
		国際交流Ⅰ	AA119bJ 1・2・3・4 前・後
		国際交流Ⅱ	AA120bJ 1・2・3・4 後
		海外語学・文化演習	AA121bJ 1・2・3・4 後
	Ⅱ群 言語コミュニ ケーション科目	アドバンス英語Ⅰ	AA122aJ 1 前
		アドバンス英語Ⅱ	AA123aJ 1 後
		英語Ⅰ	AA124aJ 1 前
		英語Ⅱ	AA125aJ 1 後
		英語Ⅲ	AA126aJ 1 前
		英語Ⅳ	AA127aJ 1 後
		日本語Ⅰ	AA128aJ 1 前
		日本語Ⅱ	AA129aJ 1 後
	Ⅲ群 数理・データ サイエンス科目	データ科学と社会Ⅰ	AA130aJ 1 前
		データ科学と社会Ⅱ	AA131bJ 1 前
		データサイエンス概論	AA132aJ 1 前
		データサイエンス演習	AA133bJ 1 後
	Ⅳ群 実践的統合教育科目	やまぐち未来デザインプロジェクトⅠ	AA134aJ 1 前
		やまぐち未来デザインプロジェクトⅡ	AA135bJ 1 後

1

基礎教育

2

キャリア教育

3

国際教育交流・
海外研修・留学

4

SPARC
教育プログラム

②卒業要件

学則第 56 条の規定による卒業に必要な単位は 124 単位です。その内訳は以下のとおりです。

<基盤教育科目群>

区分	卒業単位	備考
I 群 生命・生活・人生を探究する科目	12 単位以上 (必修 4 単位)	
II 群 言語コミュニケーション科目	英語 8 単位	ただし、外国人留学生にあつては、英語に代えて「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」を修得すること。なお、「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」の履修は外国人留学生に限る。
III 群 数理・データサイエンス科目	6 単位 (必修 6 単位)	
IV 群 実践的統合教育科目	4 単位 (必修 4 単位)	
計	30 単位以上	

<専門教育科目群>

区分	卒業単位	備考
専門基礎科目 (DX 推進)	14 単位以上 (必修 10 単位)	
学部基幹科目	14 単位 (必修 14 単位)	
学科基礎科目	基礎	10 単位以上 (必修 6 単位)
	初修言語	8 単位以上
	日本語	母語は履修できない。 「実践日本語Ⅰ」「実践日本語Ⅱ」の単位認定は外国人留学生に限る。
展開科目	英語	28 単位以上
	多文化共生	
	共通	
実践的統合教育科目	12 単位 (必修 12 単位)	
関連科目	8 単位以上	
計	94 単位以上	
合計	124 単位以上	

授業科目			科目ナンバリング	開講期	単位数			備考	履修モデル		YFL
					必修	選択	自由	卒業要件等	デザイン創造コース	日本・地域文化コース	
学芸員に関する専門科目	博物館教育論	AJ163aJ	1・2・3・4 後				2	卒業要件に含まれない。 (1) 中学校教諭一種免許状(国語)若しくは高等学校一種免許状(国語)を受ける資格又は司書、司書教諭若しくは学芸員の資格の取得を希望する者は、それぞれ必要な授業科目について所定の単位を修得すること。			
	博物館情報・メディア論	AJ164aJ	2・3 後				2				
	博物館学内実習Ⅰ	AJ165dJ	2 後				1	(2) 日本語教員試験受験資格の取得を希望する者は、必要な授業科目について所定の単位を修得すること。			
	博物館学内実習Ⅱ	AJ166dJ	3・4 前				1				
	博物館実習	AJ167dJ	3・4 前				1	(3) 学校司書のモデルカリキュラムを修了しようとする者は、必要な授業科目について所定の単位を修得すること。			

【注意事項】

- ・履修モデルの◎印は履修を強く推奨する科目、○印は履修を推奨する科目です。卒業要件とは異なりますので注意してください。
- ・履修モデル上では卒業要件以上に○が付いている場合があります。自らの学びに合わせて必要な単位を満たすように履修してください。
- ・YFLについては、第2章2-2 キャリア教育(2)「YFL キャリア」のページを参照してください。

②卒業要件

学則第56条の規定による卒業に必要な単位は124単位です。その内訳は以下のとおりです。

＜基盤教育科目群＞

区分	卒業単位	備考
I 群 生命・生活・人生を探究する科目	12 単位以上 (必修4 単位)	
II 群 言語コミュニケーション科目	英語 8 単位	ただし、外国人留学生にあっては、英語に代えて「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」を修得すること。なお、「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」の履修は外国人留学生に限る。
III 群 数理・データサイエンス科目	6 単位 (必修6 単位)	
IV 群 実践的統合教育科目	4 単位 (必修4 単位)	
計	30 単位以上	

＜専門教育科目群＞

区分	卒業単位	備考
専門基礎科目 (DX 推進)	14 単位以上 (必修10 単位)	
学部基幹科目	14 単位 (必修14 単位)	
学科基礎科目	14 単位 (必修6 単位)	
展開科目	32 単位以上 (必修2 単位)	
実践的統合教育科目	12 単位 (必修12 単位)	
関連科目	8 単位以上	
計	94 単位以上	
合計	124 単位以上	

②卒業要件

学則第 56 条の規定による卒業に必要な単位は 124 単位です。その内訳は以下のとおりです。

<基盤教育科目群>

区分	卒業単位	備考
I 群 生命・生活・人生を探究する科目	12 単位以上 (必修 4 単位)	
II 群 言語コミュニケーション科目	英語 8 単位	ただし、外国人留学生にあつては、英語に代えて「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」を修得すること。なお、「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」の履修は外国人留学生に限る。
III 群 数理・データサイエンス科目	6 単位 (必修 6 単位)	
IV 群 実践的統合教育科目	4 単位 (必修 4 単位)	
計	30 単位以上	

<専門教育科目群>

区分	卒業単位	備考
専門基礎科目 (DX 推進)	14 単位以上 (必修 10 単位)	
学部基幹科目	14 単位 (必修 14 単位)	
学科基礎科目	16 単位以上 (必修 8 単位)	
展開科目	30 単位以上	
実践的統合教育科目	12 単位 (必修 12 単位)	
関連科目	8 単位以上	
計	94 単位以上	
合計	124 単位以上	

②卒業要件

学則第 56 条の規定による卒業に必要な単位は 124 単位です。その内訳は以下のとおりです。

＜基盤教育科目群＞

区分	卒業単位	備考
I 群 生命・生活・人生を探究する科目	10 単位以上 (必修 2 単位)	
II 群 言語コミュニケーション科目	英語 8 単位	ただし、外国人留学生にあつては、英語に代えて「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」を修得すること。なお、「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」の履修は外国人留学生に限る。
III 群 数理・データサイエンス科目	6 単位 (必修 6 単位)	
IV 群 実践的統合教育科目	4 単位 (必修 4 単位)	
計	28 単位以上	

＜専門教育科目群＞

区分	卒業単位	備考
専門基礎科目	18 単位以上	
基幹科目	14 単位 (必修 14 単位)	
展開科目	展開科目Ⅰ	14 単位以上
	展開科目Ⅱ	16 単位以上
実践的統合教育科目	実践的統合教育科目Ⅰ	4 単位以上 (必修 4 単位)
	実践的統合教育科目Ⅱ	9 単位以上 (必修 9 単位)
関連科目	4 単位以上	実践的統合教育科目および関連科目から 34 単位以上修得
計	96 単位以上	
合計	124 単位以上	

②卒業要件

学則第 56 条の規定による卒業に必要な単位は 124 単位です。その内訳は以下のとおりです。

＜基盤教育科目群＞

区分	卒業単位	備考
I 群 生命・生活・人生を探究する科目	10 単位以上 (必修 4 単位)	
II 群 言語コミュニケーション科目	8 単位 (必修 8 単位)	
III 群 数理・データサイエンス科目	6 単位 (必修 6 単位)	
IV 群 実践的統合教育科目	4 単位 (必修 4 単位)	
計	28 単位以上	

＜専門教育科目群＞

区分	卒業単位	備考
専門基礎科目	22 単位 (必修 22 単位)	
基幹科目	17 単位 (必修 17 単位)	
展開科目	42 単位 (必修 42 単位)	
実践的統合教育科目	11 単位 (必修 11 単位)	
関連科目	4 単位以上	
計	96 単位以上	
合計	124 単位以上	

②卒業要件

学則第 56 条の規定による卒業に必要な単位は 124 単位です。その内訳は以下のとおりです。

＜基盤教育科目群＞

区分	卒業単位	備考
I 群 生命・生活・人生を探究する科目	10 単位以上 (必修 2 単位)	
II 群 言語コミュニケーション科目	8 単位 (必修 8 単位)	
III 群 数理・データサイエンス科目	6 単位 (必修 6 単位)	
IV 群 実践的統合教育科目	4 単位 (必修 4 単位)	
計	28 単位以上	

＜専門教育科目群＞

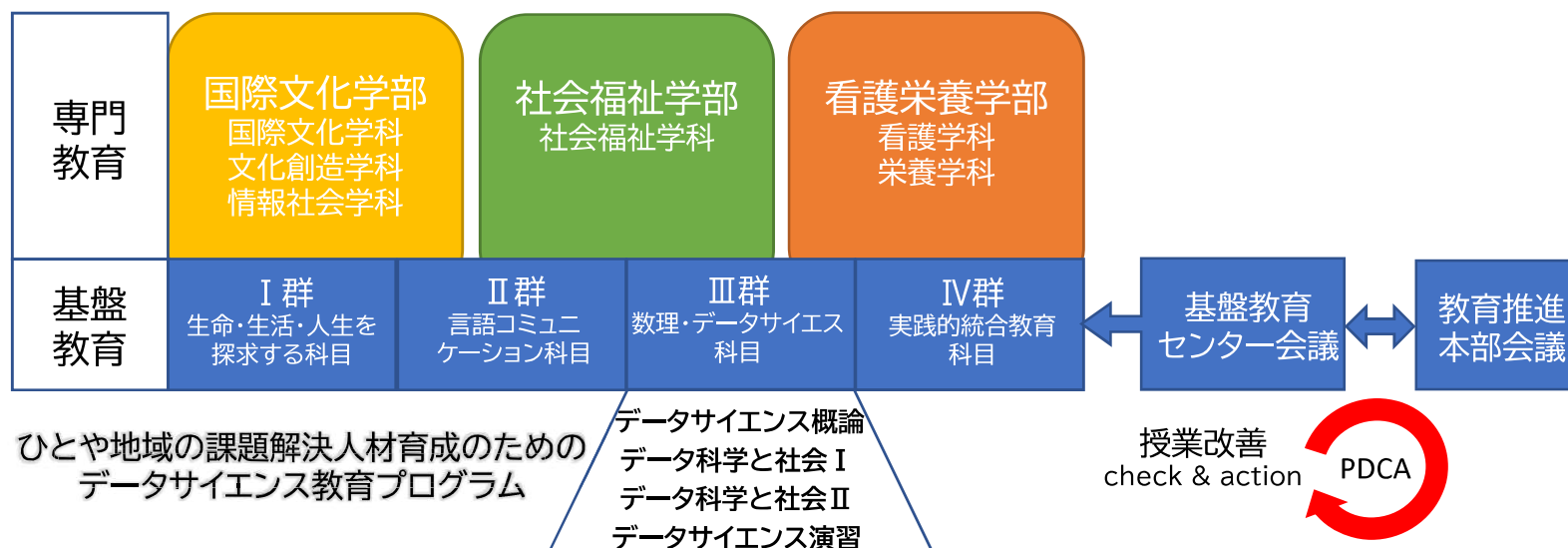
区分	卒業単位	備考
専門基礎科目	22 単位 (必修 22 単位)	
基幹科目	27 単位 (必修 27 単位)	
展開科目	32 単位 (必修 32 単位)	
実践的統合教育科目	15 単位以上 (必修 12 単位)	「公衆栄養学臨地実習」「臨床栄養学臨地実習」から 2 単位以上修得すること。 「臨床栄養実践実習」「食環境マネジメント実践実習」「食育実践実習」から 1 単位修得すること。
関連科目		
計	96 単位以上	
合計	124 単位以上	



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

山口県立大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム 取組概要

ひとや地域の課題解決人材育成のためのデータサイエンス教育プログラム



基盤教育Ⅲ群(数理・データサイエンス科目)は、身の回りのデータが持っている価値を見極めて、地域の課題解決のために効果的に役立てるにはどうすべきかを学ぶ科目群であり、客観的なデータに基づいて、科学的で合理的な分析や判断ができるようになることを目指す。

対象学部

本教育プログラムは、2022年度入学生から、全学必修である。

修了要件

「データサイエンス概論」、「データ科学と社会Ⅰ」、「データ科学と社会Ⅱ」、「データサイエンス演習」の単位(合計6単位)を修得すること。該当する科目は全て必修科目であり、これらの学修内容は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)実施要項細目に記載の5つの審査項目に対して網羅的に対応している。

プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

Society5.0の社会で生活するリテラシー、特に地域の課題解決のためにデータを活用する方法や適切に解釈する能力を身に付ける。さらに、民間企業や研究機関からのゲストスピーカーなどとの意見交換を通して、データサイエンスと社会とのつながりも修得する。